



4

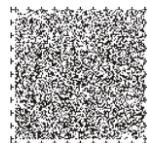


# 聴覚障がい

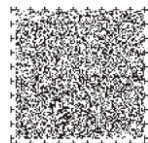
聴覚障がいは「全くきこえない」「静かなところではきこえるけど、人混みの中ではききとりづらい」など、きこえ方は人により違います。「手話言語」と「日本語(音声・文字)」を言語としている方があり、コミュニケーション方法はさまざまです。補聴器や人工内耳を使用している方、聴導犬同伴の方もいます。

## 障がいの状態

- ろう**……………生まれつき又は幼いころから、きこえない状態。手話言語を使う方が多い。
- 中途失聴**……………言葉を覚えた後で、事故や病気できこえなくなった状態。
- 難聴**……………周囲の状況や音質などにより、人によってきこえ方が違い、小さい音がきこえにくい状態。



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



配慮

こんなサポートがうれしい!

**外見では分かりにくい障がいです。**

外見では分かりにくい障がいのため、周囲に気付いてもらえないことがあります。特に難聴、中途失聴の場合は話せる方も多く、「挨拶をしたのに無視された。」「話せるからきこえるはず。」などと誤解されることがありますが、きこえていないため、情報が伝わっていないこともあります。気付いたら「筆談」「手話言語」などで伝えてください。

**音声以外の連絡方法を教えてください。**

聴覚障がいのある方との連絡方法は、FAX・メール・電話リレーサービス(きこえる方ときこえない方を電話でつなぐサービス)などがあります。状況や連絡する内容によって、本人が希望する連絡方法を確認してください。

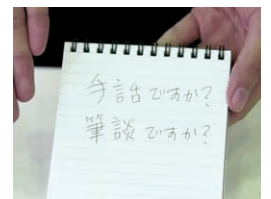
**さまざまなコミュニケーション方法があります。**

音声情報を取得するのが難しいため、お店や施設などでは、アナウンスや必要な情報に気づかず困ることがあります。手話言語や筆談のほか、音声を文字化したり、文字を入力することができるアプリなどを使っての情報伝達も有効です。また、スマートフォンなどのビデオ通話機能を使った遠隔手話サービスにより、コミュニケーションをとる方もいることを知ってください。聴覚障がいは、「全くきこえない」「補聴器などを付ければききとれる」など、内容や程度がさまざまです。コミュニケーション方法も「手話言語」「筆談」「口話」などさまざまで、組み合わせることもありますので、会話の始めに確認してください。

## 事例

たとえば、こんなことがあります。

聴覚障がいのある方とのコミュニケーション方法は手話言語と思われがちですが、中途失聴者や難聴者の多くは文字により情報を得ています。ききとりづらそうにしていたり、きこえていないように見えたら、筆談やアプリでコミュニケーション手段を確認してください。また、館内放送などの音声によるお知らせについても文字などで知らせてもらえると嬉しいです。筆談など、文字を書いて伝える場合は、短い言葉で簡潔に、読みやすい字で伝えてください。



※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。